

写真で見る H17年度 決算



駅西口保留床 (公共公益施設) の取得 15 億円

現在のふじみ野市サービスセンター関係施設の取得。



アスベスト対策事業 2,369 万円

アスベスト含有吹き付け材を使用している校舎等について、アスベスト飛散防止のための囲い込み及び封じ込めの工事。福岡小・駒西小・上野台小・元福小・花の木中



大井作業所増築工事

1,099 万円

知的障害者授産施設の作業場等の増築を実施。
(大井武蔵野)



ゆずり葉保育園建設工事

3 億 3,579 万円

公設民営方式による保育園 (定員 120 名) の建設。
(鶴ヶ岡 4 丁目)



電算システム統合業務委託

7 億 398 万円

合併に伴う住民情報系及び内部情報系の電算システム統合業務等の委託。

【平成 17 年度決算の主な事業】	
・総合振興計画策定事業	304 万円
・基本健康診査委託料	2 億 963 万円
・火葬場・斎場事業	2 億 2,495 万円
・東久保区画整理記念公園整備工事	2,720 万円
・駒林区画整理事業	5,200 万円
・東口駅前広場暫定歩道整備工事	694 万円
・上福岡駅前通線 (川崎橋) 事業費負担金	1,415 万円
・西口駅前地区整備工事	36 億 6,421 万円
・(仮称) 東西連絡道路整備事業	1 億 7,701 万円
・公営住宅供給事業	3,799 万円
・西小学校耐震補強工事	6,077 万円
・大井小学校 (普通教室棟) 耐震補強工事	5,114 万円
・福岡小学校トイレ改修工事	3,433 万円
・大井中学校給水設備改修工事	1,995 万円

平成17年度 一般会計決算 討 論

賛成

民主党・市民クラブ 市政の透明化や情報公開の推進を

経常収支比率が九九・七％という異常な数値を示し、県内比較でトップになった。扶助費、物件費、公債費も高騰を示しており、経常経費の算定方法も含めて、前市政の大きなツケが回っている。抜本的改革は不可欠だ。政府の構造改革で、地方財源は圧迫され、格差社会が進行した。地方自治体のなすべきことははっきりしている。市民生活の安全の確保であり、そしてサーバー・インターネットの充実である。あわせて市民参画型の行政を進め、それを保障する市政の透明化や、情報公開の推進を求めていきたい。そうした市民合意のもとで、初めて抜本的な行財政改革は可能である。

賛成

公明党 電算システムの早期導入を

ふじみ野市が昨年十月に誕生して初めての決算であり、今期の決算は合併後六カ月間の、旧市町の予算を引き継ぐ形で執行された決算である。平成十七年度一般会計歳入歳出決算を財源別で見ると、自主財源は五九・四％で、平成十六年度の旧市町合算分の五八・二％と比較して、一・二ポイント増加している。また、経常収支比率は九九・七％で財政の硬直化が進んでおり、深刻な状況である。収入未済額の増加と不納欠損については、職員の努力を、住民サービスの観点から、電算システムの早期導入を、ごみ分別収集の促進を行なえるシステムづくりを早急にする。

反対

日本共産党 市民生活を支える施策が不十分

政府の構造改革により、市民の納税額が増え(前年比三億円増)、その一方で、市民一人当たり平均給与所得額が三万円も減。リストラ、倒産など厳しい生活を強いられている市民生活を支える施策が不十分。合併のためのシステム変更、庁舎改修や表示変更で一〇億円もの市民の税金が使われている。一五億円もかけた駅前出張所の利用状況が振るわず、かけた費用に比べて効果が低い。(仮称)大井第七小建設用地の取得をこの年度でしなかつたことにより、開校をさらに遅くさせた市長の責任は重大。市内循環バスの検討もなし。合併したらサービスは高く負担は低くの約束に違反した決算。

賛成

自由民主クラブ 各事業は、ほぼ予定どおり実施された

平成十七年度のふじみ野市の決算は、新たな事業を除いては基本的に合併前の両市町の予算の執行残を引き継いだ決算であり、合併準備にかかる経費や合併のすり合わせにより増額となった経費の支出もあった。サービスは高い方に、負担は低い方という合併時の申し合わせに沿って執行された。合併前の両市町の予算で計上された各事業は、ほぼ予定どおり実施され、一定の成果をおさめることができた。今後も、合併によるスケールメリットを生かした行財政運営を行なうことで、合併による効果を最大限に引き出していく必要があると思う。